

自治体の歳入確保、企業のイメージアップ、

社会・地域貢献etc

# ネーミングライツ あのまち このまち こんないい話

ネーミングライツを導入する市町村が増えている。「公共施設の名前を付与する命名権と付帯する諸権利」のことを言い、市民会館や文化会館、体育館から、最近

地下鉄や電車の駅、停留場、公立大学の食堂にまで広がっている。自治体にとっては一定の歳入の確保で施設の維持・管理に役立てられ、一方の企業にとっては単なる広告宣伝だけでなくイメージ向上や社会貢献につながるなどの声もある。道内のいくつかのケースで「いい話」を探った。

道は、道立真駒内公園屋内競技場と屋外競技場のネーミングライツについて3月31日、北海道セキスイハイムと4月から3年間の契約を結んだ。金額は2200万円。これで6回目の更新となった。

道有施設のネーミングライツは、この真駒内屋内・屋外競技場が「先駆け」となった。2007年のことだ。公共施設の命名権を

北海道  
セキスイハイム

真駒内五輪施設で先鞭をつけて18年  
当時担当室長語る「道民の宝」の思い



▲上山直樹氏

巡っては、この頃、国内では「味の素スタジアム」（東京スタジアム）、「日産スタジアム」（横浜国際競技場）などがみられたが、道内ではネーミングライツという言葉すらあまり認知されていなかった。

道はこの時、真駒内の2施設と「かであるホール」、「月寒グリーンドーム」、「野幌総合運

降の公募の弾みとなったのは間違いない。「真駒内」を選んだ目的や理由は、何だったのか。当時企画推進室長として実務を主導した上山直樹北海道セキスイハイム前取締役統括本部長（61）はこう語る。

「地域貢献活動を形に示して地域密着路線を道民にアピールするのが大きな目的。知名度向上にも結びつくと考えました」

「セキスイ」の名は全国ブランドとして浸透しているが、地域に根を下ろす地場企業として強く示したかったということだ。さらに、「真駒内の両競技場は、1972年冬季札幌五輪の舞台となった「道民の宝」です。その施

設の維持・活用に少しでも貢献したかった」

上山氏はこの契約を終えてから、帯広支店長に異動し、その後は東北セキスイハイムとの人事交流で仙台に赴いた。2015年グループ会社の北海道セキスイハイムに入社し、2年後取締役に就任。昨年、年齢的な内規により役員を退いたものの、現在も「社長特命」とい



▲真駒内セキスイハイムアイスアリーナ



▲真駒内セキスイハイムスタジアム

う立場で同社に勤務している。

「この18年間で真駒内花火大会の会場として定着するなど、新たな活用もされているようです。スポーツイベントやアーティストのラ

イブ、コンサート会場としても利用され続けており、多くの感動を生んでいる。そこに当社グループが関わっていることに誇りを感じ、嬉しく思います」と締め括った。（T）

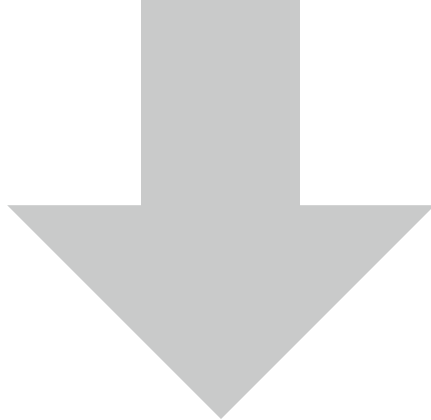
札幌市

6カ所の歩道橋で近  
きっかけは波田大専市議の質問

札幌市は横断歩道橋のネーミングライツ事業を4月に始め、まずは「菊水歩道橋」など

6橋の募集を5月16日まで行なった。予想を上回る応募数で審査や確認作業に時間を要した

が、7月中旬頃には命名権者が決まる予定だ。この事業を昨年3月の市議会予算特別委員会



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を  
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから  
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから  
**TEL 011-644-0101**  
(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)